

with コロナで取り組むキャリアアップ支援

現任看護師教育委員会 3N 病棟師長 児玉涼子



コロナ収束の兆しが見えない中、当たり前であった外出や外食、旅行など多方面での行動制限が継続している状況です。院外研修など多くの研究会や学会が中止となり、オンデマンド研修や Zoom を活用したミーティングなど様変わりしています。

当院の看護部では 2016 年 5 月に日本看護協会から公表された「看護師のクリニカルリーダー」に則り、クリニカルリーダーを再構築いたしました。

現任看護師教育委員会では、クリニカルリーダーに沿って年間教育計画を立案し、集合研修は勤務時間内での研修で開催しています。また、より専門的な研修として院内の認定看護師が講師を担う Saturday 研修を設けています。

コロナ禍においても OJT や Off-JT、自己啓発へ

の取り組みを充実させ、人材育成していくことが重要です。OJT を基本として、適宜、適切な Off-JT を取り入れて技術の定着化を図り、個々の育成状況を見極めて PDCA サイクルを回したいと考えております。当院で導入中の Nursing Skills を活用し、カスタマイズ機能や効果的な e ラーニングにより、「学びの環境」を整え人材育成を支援できるよう励みたいと思います。



新型コロナウイルスの宿泊療養施設への派遣を通して

看護部 派遣看護師



今までにない不安が、少数の感染者とそれに関わる医療従事者に対して、地域からの激しい拒絶反応として現れたことは、今でも強く記憶に残ります。そんな中、私が宿泊療養施設への派遣を希望したのは、災害支援の志からでした。

派遣は、家族の心情も考慮し「匿名」で従事することを条件とし、家族間の接触も最小限にしました。

宿泊施設内は、宿泊者(汚染区域)・感染症個室前の廊下区域・医療スタッフ(清潔な領域)の3つにゾーニングされていました。オンライン(映像・音声)により3回/日、体温や経皮的酸素飽和度測定など患者自身が計測した結果の聞き取り含め、健康状態の把握を行いました。

宿泊者と直接的な接触がなく、定期的な画面内

のコミュニケーションや観察には限界がありましたが、状態変化の前兆を見逃さない事や不安を増長しないように努めました。

この約1ヶ月間の派遣は、一種の災害派遣を経験したような緊張感がありました。しかし、「医療従事者の負担軽減に繋がるように、感染予防対策の徹底により、新たなクラスターが起きない環境づくりの一助になっている」という事がモチベーションとなりました。このコロナは、「収束」はあっても「終息」は困難であると言われています。まずは感染しないこと、そして感染しても重症化せず回復すること、そして感染された方やご家族、医療従事者が安心して地域生活を送れることを切に願っております。

